

インタビュー

inaho(株)
代表取締役CEO

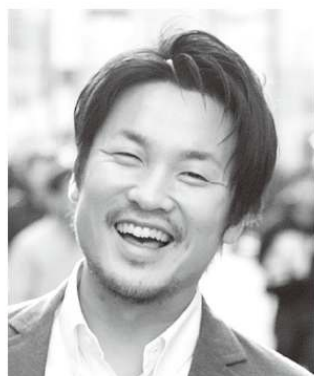
菱木 豊氏

inaho(株) (神奈川県鎌倉市小町1-15-2、☎0467-670561) は、2017年設立のスタートアップ企業。自動野菜収穫ロボットを Raas (Robot as a Service) と提供するビジネスモデルを標榜しており、3月には新しいロボット産業の発展のモデルとして「第9回ロボット大賞 農林水産大臣賞」も受賞した。今回代表取締役CEOの菱木豊氏に話を伺った。

——貴社のロボットと事業モデルについて。
菱木 当社の自動収穫ロボットは、ロボットアームを搭載したクローラー型の移動体が、ビニールハウス内を巡回移動しながら、センサーで収穫物を認識し、ロボットア

ームで野菜を収穫してカゴの中に入れる仕様となっている。そして当社ではこの収穫ロボットを無償でレンタルし、ロボットが収穫した量と市場の取引価格に応じてロボットの利用料をお支払いいただく Raas 型のビジネスを展開している。これにより農家の方は初期費用がほとんどかからずロボットを導入でき、豊作・不作などの状況に応じて利用台数や利用期間

も柔軟に設定できる。当社では第一弾製品としてアスパラガスの収穫ロボットを開発し、19年に佐



も柔軟に設定できる。当社では第一弾製品としてアスパラガスの収穫ロボットを開発し、19年に佐

も柔軟に設定できる。当社では第一弾製品としてアスパラガスの収穫ロボットを開発し、19年に佐

も柔軟に設定できる。当社では第一弾製品としてアスパラガスの収穫ロボットを開発し、19年に佐



inahoの自動収穫ロボット

RaaS型収穫ロボット事業を加速

蘭拠点を設置し海外市場も開拓

——野菜を収穫してカゴの中に入れる仕様となっている。そして当社ではこの収穫ロボットを無償でレンタルし、ロボットが収穫した量と市場の取引価格に応じてロボットの利用料をお支払いいただく Raas 型のビジネスを展開している。これにより農家の方は初期費用がほとんどかからずロボットを導入でき、豊作・不作などの状況に応じて利用台数や利用期間

も柔軟に設定できる。当社では第一弾製品としてアスパラガスの収穫ロボットを開発し、19年に佐

も柔軟に設定できる。当社では第一弾製品としてアスパラガスの収穫ロボットを開発し、19年に佐

も柔軟に設定できる。当社では第一弾製品としてアスパラガスの収穫ロボットを開発し、19年に佐

も柔軟に設定できる。当社では第一弾製品としてアスパラガスの収穫ロボットを開発し、19年に佐

（聞き手・浮島哲也記者）